

八坂地区の高齢者のみなさん! 消費者被害に気をつけて!

悪質業者は、やさしい言葉で近寄り、高齢者の話し相手になってくれます。

「私に限ってだまされることはないわ」と思っていないませんか??

高齢者の方の消費者被害相談は年々増加しています。

気づかないうちに騙されていることもあります。

また判断能力が不十分な場合、被害に遭ったことに気づきにくいこともあります。

被害に遭ったと自覚していても、被害に遭ったことが恥ずかしく思い、

迷惑をかけたくない、自分が悪いと責め、被害が表面化しにくい場合もあります。

事例

一人暮らしのAさん宅に、見知らぬ車が度々止まっていることに不信を感じた近所のBさん。

「おせっかいかな?」と思いながら世間話をしつつ聞いていると、Aさんが話しづらそうに「訪問販売に来た人が次々と商品を勧めてきて、断れず金銭的にしんどくなっている。」とのことでした。

BさんはAさんに「一緒に相談に行こう」と地域包括支援センターへ行きました。

その後、消費生活センターのアドバイスのもと、一部契約解除の手続きを行うことができました。



地域の皆さんの気づきや見守りが、高齢者の消費者被害を防ぎます!

いつもと違う様子が見られたら、ご家族や近所の方が声をかけましょう。

※愛媛県消費生活センターより引用

困ったときには、一人で悩まず

松山市地域包括支援センター東・拓南へご相談ください!

松山市地域包括支援センター東・拓南

松山市築山町5-11

☎ 089-915-7760

＜相談業務の時間＞
平日：8：30～17：15
休日：土・日、祝祭日等

八坂福祉だより

—— 編集・発行 ——

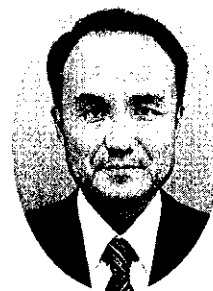
八坂地区社会福祉協議会

会 長 河端 美知子

八坂地区の人口	(R3. 8. 1 現在)
・人 口	4,837人 (男 2,182人・女 2,655人)
・65歳以上の高齢者	1,609人 (男 602人・女 1,007人)
・高齢化率	33.2%
・世 帯 数	3,039世帯

地域とともにある学校 ～だいすき八坂～

松山市立八坂小学校校長 森脇 和夫



八坂小学校校長の森脇和夫と申します。よろしくお願いいたします。

今年度の八坂小学校は「夢を描き、笑顔で輝く児童の育成」を目指しています。そのために「や：やさしく元気な子」「さ：最後までがんばる子」「か：考え学ぶ子」の3つを目指す児童の姿として、毎日の教育活動に取り組んでいます。

地域のみなさまには、日頃から本校の教育活動にご理解をいただき、登下校の見守り活動、八坂キッズ教室、公民館活動など、児童の健全育成に多大なお力添えをいただいていることに心より感謝しております。

なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、八坂大運動会をはじめとする、地域のみなさまと児童が一緒に取り組む行事の多くが中止になりました。誠に残念ですが、感染拡大防止のためにご理解ください。

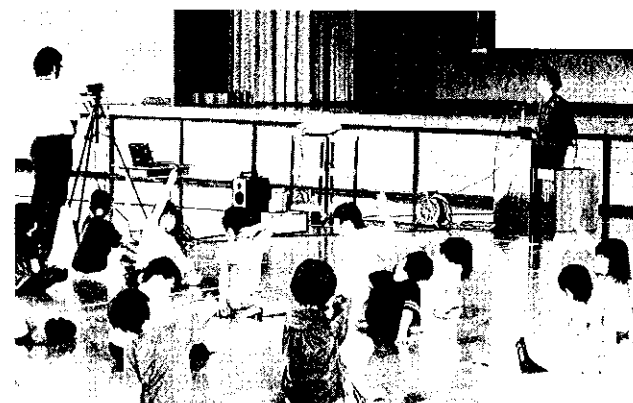
今後も、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、地域とともにある活気ある学校づくりを進めていきます。地域のみなさまには、引き続き八坂の子どもたちの健やかな成長のためにご支援をいただきますようお願いいたします。



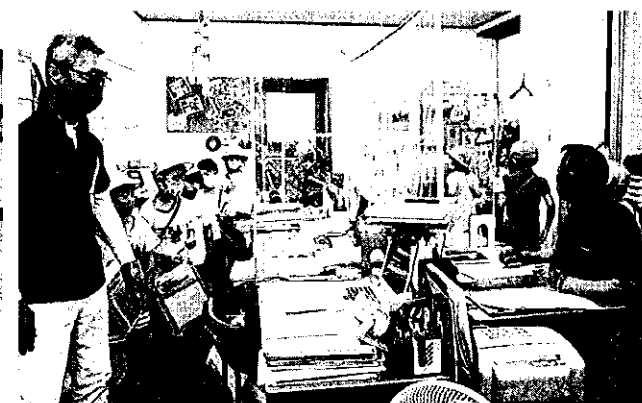
登校時の見守り活動



放課後見守りキッズ



八坂地区人権教育研究大会



公民館訪問 (2年生)

あなたの家は安全ですか？ ～住宅での火災予防～

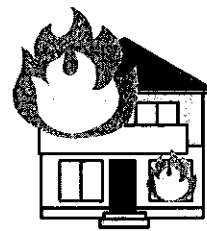
松山市東消防署 城東支署

身近なところで火災は発生しています

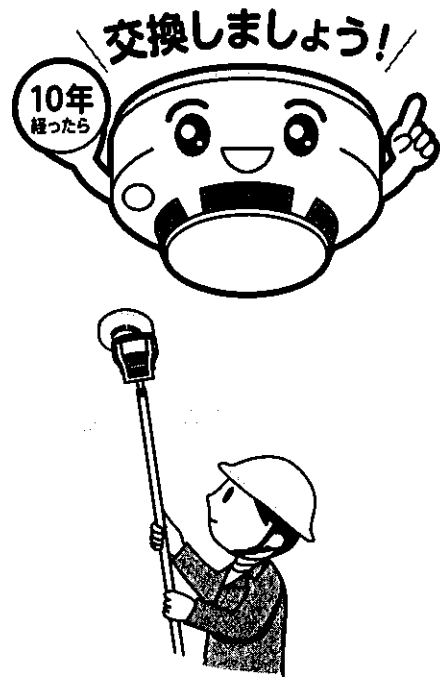
令和2年中に松山市では、火災が113件発生しています。そのうち住宅火災が47件で、火災全体の4割を占めています。火災が発生すると、多くの財産や尊い人命が危険にさらされます。住宅火災を防ぐために、まず火災の原因について知ることと、その予防対策を講じることが重要となります。

令和2年中の火災を出火原因別にみると、「たばこ」「電灯等の配線」「たき火」がそれぞれ11件で最も多くなっています。次いで「放火」が7件、「ストーブ」「配線器具」が5件となっています。住宅火災での出火の傾向について考えてみましょう。

出火原因	令和2年
たばこ	11
電灯等の配線	11
たき火	11
こんろ	9
放火	7
ストーブ	5
配線器具	5
電気機器	4
電気装置	2
火あそび	2
火入れ	2
内燃機関	2
取灰	1
こたつ	1
その他	19
不明・調査中	21
合計	113

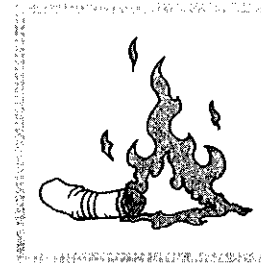


住宅用火災警報器



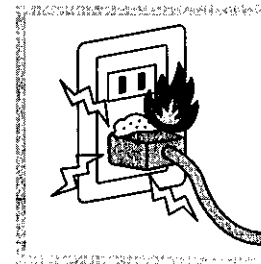
住宅用火災警報器は、各住宅の寝室や階段室（2階に寝室がある場合に限る）に煙感知器を設置することが義務付けられています。この設置場所は、住宅火災での死者の発生が、就寝中に逃げ遅れる場合が多いため、滞留する煙を感知させ、いち早く避難行動に移すためとなっています。まだご自宅に設置されていない方は早急に設置しましょう。また、設置されているご家庭でも、古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで火災を感知しなくなることがあるため、定期的に作動確認をして、故障の際は交換をしましょう。

火の用心 ～傾向と対策～



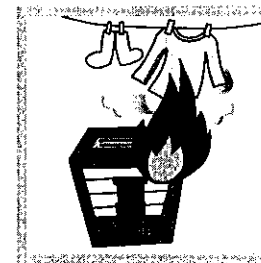
『たばこ』からの出火傾向

出火原因の多くは、火種の消し忘れです。たばこの火種は炎が見えず、消したと思っていても消えていないことがあります。灰皿に火の付いたたばこを放置したり、寝たばこをしたりしないように心掛けるとともに、灰皿に水を入れるなど、吸殻が完全に消えていることを確認しましょう。



『電気関係』からの出火傾向

電気火災は、電気配線のショート（コードを引っ張ったり、コードの上に重いものを置いたりすると被覆内部が断線し発熱することがあります）やトラッキング現象（コンセントとプラグの間に溜まった埃が湿気を帯び、そこに電流が流れて発火することがあります）、過電流（テーブルタップなどのたこ足配線で許容電流を越えて使用すると発熱することがあります）など出火原因は様々ですが、電気機器の正しい使用と日頃の点検（コンセントの清掃など）を心掛けましょう。



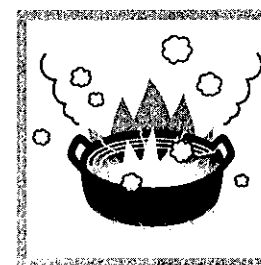
『ストーブ』からの出火傾向

出火原因の多くは、可燃物がストーブに接触したことで発生しています。また、ガソリンの誤給油や、カートリッジタンクの蓋が緩んだままセットしたことでの火災も発生しています。ストーブ使用時は、ストーブで洗濯物の乾燥など周辺に可燃物を置かないようにしましょう。



『放火』での出火傾向

放火火災は、人目の付きにくい時間帯に屋外のゴミや物品に放火されるケースが多く、家の周りにゴミや物件を放置せず、整理整頓を心掛けましょう。また、夜間にゴミ捨て場のゴミなどが放火されることも多いため、ゴミ出しのルールを守り、地域の火災予防にも努めましょう。



『こんろ』からの出火傾向

住宅での日常生活の中で、火を多く使う機会として調理中が考えられます。てんぷら油の過熱に十分注意し、調理中は絶対にこんろから離れないようにしましょう。冬場になれば、セーターなどの燃えやすい素材を着て調理することも考えられますが、こんろに衣服を近づけないようにしましょう。近年、IHクッキングヒーターの使用率が高くなっていますが、使用する鍋が経年劣化で底部が反っていたり、油の量が適正でなかったりすると、温度センサーが感知しない場合があるため、正しい使い方調理しましょう。